

所属・氏名（看護学部 看護学科 氏名：野間 雅衣）

著書，学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所，発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(学術論文) ① 看護師・看護学生におけるがん患者の倦怠感の捉え方とその関連要因	単著	2016 年 3 月	広島国際大学看護学ジャーナル 第 13 巻 第 1 号 pp.15～28	看護師・看護学生の癌患者の倦怠感の捉え方やアセスメント指標を比較し，それぞれの倦怠感に対する認識の特徴から，看護学生に，治療の側面にとどまらず患者の変化を多面的にアセスメントできるように指導を強化することが重要であるという示唆を得た．(14 頁)
	② 看護大学生の統合看護学実習における緩和ケア病棟での学び	共著	2017 年 3 月	看護・保健科学研究誌 第 17 巻 1 号 pp.92～100	A 大学看護学科 4 年次生のうち，統合看護学実習において緩和ケア病棟で実習を行った学生のレポートから学生の学びを明らかにした．学生は実習目標の「トータルペインの視点からの対象理解」「尊厳を考えた看護や多職種との連携」などに関しては，これまでの臨地実習の経験を活かして学びを深めていた．しかし，緩和ケア病棟で生じる倫理的な課題や自己の死生観の洞察については記載が少なく，また学びが十分に表現できていなかった．今後は，学生が学びを表現できるように，リフレクションの強化などが課題である．(9 頁) (竹山広美，岡本裕子，野間雅衣，秋山智)担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能．
2	(報告・発表) ③ 看護師のがん患者の倦怠感の捉え方に関する研究	共著	2016 年 9 月	日本ヒューマン・ケア心理学会第 18 回	看護師のがん患者の倦怠感の捉え方および経験年数との関連を明らかにすることを目的に，134 名の看護師に自記式質問紙調査を行った．その結果，看護師が捉える倦怠感は，がん患者とは違い「身体的倦怠感」と「精神的倦怠感」の 2 構成であった．経験年数が上がるほど倦怠感が強い肺癌事例では，「横になりたい」「身の置き所のないようなだるさを感じる」が重要視されていた．また，経験年数が上がるほど「全身状態」「発熱」をアセスメント指標として重要視するようになることが示唆された．(野間雅衣，山崎登志子) 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能．
	④ 看護大学生の統合看護学実習における緩和ケア病棟での学び—実習終了後のレポートから—		2017 年 2 月	第 31 回日本がん看護学会学術集会講演集	A 大学看護学科 4 年次生のうち，統合看護学実習において緩和ケア病棟で実習を行った学生のレポートから学生の学びを明らかにした．学生は実習目標の「トータルペインの視点からの対象理解」「尊厳を考えた看護や多職種との連携」などに関しては，これまでの臨地実習の経験を活かして，学びを深めていた．しかし，緩和ケア病棟で生じる倫理的な課題や自己の死生観の洞察については，記載が少なく，また学びが十分に表現できていなかった．今後は，学生が学びを表現できるように，リフレクションの強化などが課題である． (竹山広美，野間雅衣，岡本裕子，秋山智) (共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
	⑤				